

「聞」一句鑑賞

守屋 明俊

(五十音順)

青ぶだう蔓の行方は神の意思 持田きよえ

野生の葡萄の蔓がどこまでも長く長く、古びた社にまで伸びているのを勝沼で見たことがある。今思えば、あの伸び方は「神の意思」であつたのだろう。その生命力に驚く。葡萄はまだ熟さない青々とした夏の葡萄の房をいい、夏の季語。赤紫色やマスカットのような青いもの、そして黒葡萄も含めそれらは「葡萄」であり秋の季語。故に、この句の葡萄の蔓はまだまだ神の意思で伸びていく筈である。

K2より滑落の報雷止まず 森尻 禮子

今年7月下旬にパキスタン・カラコルム山脈のK2(標高8611³呎)の未踏ルートで氷とともに滑落した山岳カメラマンの平出和也さんと中島健郎さんの死を悼む。二人とも登山界のアカデミー賞と言われる「ピオレドール」を受賞していた登山家。常に挑戦者であり続けたと新聞は報道している。山を愛する作者はこの悲しみを「雷止まず」と表現した。

発熱外来「雄々し」と鳴くは蟬ばかり 山田 径子

病院の発熱外来に受診した折につくつく法師の声を聞いた作者。オーシーツクツクの声が「雄々し」と聞こえて来るほど作者の体は弱つていたのでろう。蟬の声が恨めしく思えたのだ。「蟬ばかり」の嘆きに共鳴。

乳母車に片足上げて昼寝の児 山田 雅子

この子の「片足上げて」のふてぶてしい所作。その足はムキムキで、将来大物になるような予感もある。女の子かも知れない。昼寝から覚めると目がぼつちりの可愛い子。

種なしといへども柿に種ひとつ 横須賀智子

例えば、会津の身知らず柿。身の大きい渋柿に焼酎をかけて渋抜きをする。そのため種が無く、熟すととろとろに甘い。でも、たまに融けかけた種に当たる場合もある。お愛嬌である。

熱帯夜寝返りの子へ子守風 和田 郁子

団扇の風であつても、扇風機の風であつても、それを熱帯夜の寝苦しい子に当てれば、もう「子守風」。「寝返りの子へ」の描写で、その子の顔も、その子に添い寝している作者の姿も立ち上がった。懐かしい風景。

ありがたう大黒柱の冷蔵庫 阿部 草薫

冷蔵庫への感謝の句である。冷蔵庫は普段は離れ離れの家族が一日に何回か顔を合せる場所。冷蔵庫の開閉だけで夫婦や親子、兄弟姉妹間の会話が自然と成り立つ。頼りになる「大黒柱」だ。冷蔵庫は二十四時間いつもその家庭を見守っている。

身を潜む冷房といふ穴ぐらに 伊澤やすゑ

人類が気候の温暖化を促進し、気候変動は容赦なく、しつぱ返しの如く私たちの暮しを直撃。この夏も真夏日が幾日も続いた。テレビは「熱中症に罹らないよう躊躇わず冷房を使い」とアナウンスし、実際に私もこれに従い家に籠もった。だがこの句の作者はただ籠もって居たわけではない。冷房の部屋を「穴ぐら」と詠み、今の世の閉塞感を巧みに表現した。

黙考に耽る忽ち午睡へと 市村 啓子

いろいろ考え事をするのを作者は「黙考に耽る」と美しく表現する。その生真面目さに対し「忽ち午睡へと」の人間的な措辞は、何やら肩透かしを食わされているようで面白い。背筋を正されるような句もいいが、このようなのんびりした句もまた人間には必要である。

姉節の不老長寿や桃雫 牛込はる子

「節」という名のお姉さんを持つ作者。不老長寿と詠むだけあって頗るお元氣だという。この句、雫が垂れるほど桃にむしやぶりついている、その艶々した顔が見えるようである。「桃雫」に慶びの情が表れている。

瀑布好き世界三瀑夢の夢 内海 範子

世界三大瀑布は、イグアスの滝、ヴィクトリアの滝、ナイアガラの滝。この内の一つだけでも観に行きたいがこの先も無理だろう。それを作者は「夢の夢」と。夢のまた夢であるけれども、夢は見続けよう。

炎帝よ地を労りて雲纏へ 大下 壽櫻

炎帝に呼びかけている。少しは雲を纏い、日差しを弱くして大地を労りなさいと。このような句を作らざるを得ないほど今年も炎帝が大活躍してしまった。もちろん太陽が悪いのではない。太陽からすると「お門違い」であり、「お前さんの星のことはそちらで解決して」と。

封解くや時の渦巻く蚊遣香 太田 裕子

その封を解き点火すると、ゆつくり時をかけて渦巻を解く蚊遣香。慌ただしさが無く、その風情は今も庶民に愛されている。「時の渦巻く」に納得。

猛暑なり目礼のみの昼下り 小河原政子

いつもなら道で出会えば簡単な挨拶をするところだが
こう暑くなると「こんにちは」と言うことさえも億劫。
言葉を発するだけでエネルギーを消耗してしまいそう。
「目礼のみの昼下り」はよく解かる。

はつなつの高原ホテル金のノブ 小野 直美

高原ホテルに泊まったことはないけれども、この句の
「金のノブ」は高級感があり、それだけでホテルの爽や
かな外観、清潔なベッドメイキング、新鮮なミルクや朝
採り野菜などが想像される。「はつなつ」が効いている。

月の出や沖へと泳ぐ十七歳 金子かほる

湘南で育った作者の、これは自画像なのだろう。十七
歳。灼けた素肌の健康的な十七歳を浜辺に思い浮かべて
みる。十七歳は大人への入口。これからどう生きていく
かの進路の選択を考えている時期だが、そんなことは忘
れ、若き作者は只々泳ぐ。夕月に向かい沖へと泳ぐ雄姿
はこの上なく只々美しい。この句の姿も美しい。

蓮咲くやフエの王朝滅ぶれど 金田 知子

ベトナムへの旅。フエは十九世紀のグエン王朝の首都
で、ベトナム戦争では激戦地となった。現在では世界遺

産に登録され寺院などの史跡も多い。作者はふと目にし
た蓮の花の美しさに、滅んだ王朝とその時代を生きた
人々を偲ぶ。滅んでも蓮の花は永遠。そう思ったのだ。

暑い日に熱い茶飲みし父偲ぶ 金田 喜子

冷たいものを飲みたいところであるが、お腹が冷えて
健康を損ねることも多い。掲出の句のお父様も熱い茶を
啜つたのだろう。その父を偲び作者もまた熱い茶を飲む。

祖父の忌や地藏の膝の雨蛙 北 好夫

祖父の遠忌の際に地藏を見たのだろうか。その地藏の
膝にびよこつと雨蛙が乗っていて、作者としては何やら
それが祖父のようにも思えた。でも、祖父の生れ変りと
見るには雨蛙があまりにも可愛い過ぎる。やはり、亡き
祖父を雨蛙から偲んだのだろう。

水茎の細く流れて螢の夜 木山 有衣

この細く流れるような筆遣い、筆跡。紫式部が書いて
いるような錯覚に陥る。しかも螢の夜である。しつとり
とした情緒がこの句から感じられる。句の形もいい。

オタクサの花ほたたと雨敲く 久保田勝一

シーボルトが命名した「オタクサ」はアジサイの花の

こと。長崎で知り合つた丸山の遊女「お滝さん」の名がその由来であるといわれている。この句の雨はしたがつて長崎の雨。「ほたほたと雨敲く」の「ほたほた」は嬉しそくに笑顔を見せる様の意もあり、明るく仄々とした雨と紫陽花が想像される。「ほたほた」が秀抜。

額紫陽花流行らぬ医者 of 門守る 栗原 季星

私の勤めていた医科大学の創設者が戦後、卒業式の学長挨拶で「藪となるより森となれ！」と訓示した話を思い出した。「藪」とは藪医者であるが、掲出句の「流行らぬ医者」もその類の医師なのか。口コミというのは本当に怖い。医院の門に額紫陽花だけが綺麗に咲いている。

冷麦に缶詰みかんトッピング 小唄あゆみ

蕎麦屋で注文すると、広々とした硝子の器の水に冷麦と氷が浮き、西瓜とか、明らかに缶詰の蜜柑と判る蜜柑も二つ三つ浮いていて、その彩りが美しく涼し気である。この句の作者はそれを自宅で試みたのか、蜜柑の缶詰を開けトッピングしたという。たまには冷麦もいい。

へこみある薬缶で麦茶沸かしけり 小泉まり子

この句は薬缶の「へこみ」の発見が全て。結婚当初から使用していたに違いない比較的大きな薬缶。毎年この

薬缶で麦茶を沸かしてきたのだろう。小泉家の歴史を物語ってしよう。

手火花を囲む見知らぬ子も入れて 幸喜美恵子

我が子だけでなく近所の子等も呼び、一緒に手火花を楽しんでる場面。近所の子どもといつても沢山居て、誰が誰やら。見知らぬ子も何人か。風の又三郎もひよつとして居たりして、兎に角、賑やかで楽しい手火花会。

梅雨明けと宣ふ雷の一打もて 小林ゆきお

「宣ふ」は「のたまう」と読む。作者らしく皮肉めいた言葉で素晴らしい。梅雨明けの雷が「はい、梅雨明けだよ。でも、これからもいっぱい落としますよ」とドカンと一発空を引き裂き大地に落ちる。「宣ふ」には「尊者が下位の者に言つてきかせる」という意味もある。尊大な雷には一刻も早く退散して貰いたいがそうもいかぬ。「宣ふ」はせめてもの、作者の捨て台詞であるのだろう。

恐いもの知らずの頃の西日部屋 斉藤久美子

私には「恐いもの知らず」の頃など無かった。だからこの句を羨望の目で見ている。西日の当たる部屋を親から宛がわれ、自意識高揚のままに思春期を過ぎたのだろう。その後、世の中の恐さを知ったからこそその一句。

薔薇崩る力尽きたるその一瞬 島 昌子

将来の自分の姿を薔薇に見ている。今は一生懸命に生きているが、この先はどうも怪しい。そういう意識が薔薇を見た時に「力尽きたるその一瞬」の措辞を生んだのだろう。薔薇の花の崩れ様はまさしく「力尽きたる」。

鬼ヤンマ塩から麦わら友はるか 嶋谷 宗泰

幼馴染のあの友、この友。鬼やんま、塩辛蜻蛉、麦藁蜻蛉。皆でよく捕ったなあ。みんな、みんな、今は亡い。その懐かしい古い顔を作者は「友はるか」と親しみを籠めて詠んでいる。この句は蜻蛉を三種、畳み掛けるように置き成功した。

生かされて愚痴は言ふまい熱帯夜 清水 悠太

人間五十年の時代、五十歳を越えればその後の余生は「元を取ったね」と言われたもの。現代は寿命が八十半ばにまで伸び、病気も沢山して逆に生きづらい。「生かされて」の意識はこの辺りから芽生えるのだろうか。作者は熱帯夜にぐつと耐え「愚痴は言ふまい」と謙虚だが、愚痴を言うまいと愚痴を言っている。哀しい句だ。

住む人を見たこともなく夾竹桃 正田 和子

いつも見掛ける家ながら、その家の住民を一度も見た

ことがない。第一、生活感がない。でも、夾竹桃だけは毎年決まった時期に咲く。夾竹桃は薬用植物園に行くとき有害植物に分類されている。そう考えるとこの家は何か怪しい。それを句にしたためた作者のしたたかさ。

踏まれたら踏まれたままの草の息 新海あぐり

人間と異なり、踏まれたら踏み返せない草。踏まれたままである。この句の「草の息」は「草いきれ」のこと。強い日光に照らされた草草が発する、むつとした熱気である。踏み返せない代わりに、むつと息を吐く。草にも命があるのだ。

縁の隅なにやら蝮酒らしき 杉淵真喜子

「なにやららしき」の断定しない、推量の文を用いているのが、なにやら可笑しい。透明の瓶に蝮が見えるのだから蝮酒に間違いないのに「らしき」と惚け、自分には全く関わりないかのように詠んでいる。蝮酒をそのように詠むのは珍しいことだ。早逝した私の父は縁の隅ではなく押入れの下端に蝮酒を隠していた。

セルロイドの筆箱に夏留めをり 高橋 章子

懐かしいセルロイドの筆箱。セルロイド製は人形もあつたし石鹼箱もそうだった。筆箱はそれほど大きなも

のではなく鉛筆数本が入るくらい。あとは消しゴム。この句の「夏留め」は、例えばその子の筆記具の消耗度。絵を描いたり宿題をしたり。長い鉛筆はすり減り、その先は丸くなっている。消しゴムも汚れ、一部割れている。それがその子の夏休みの痕跡。想い出の夏なのだろう。あのセルロイドの筆箱は何年生まで使っただろうか。

灸へくそかづら花何といふ名をさづかりし 高橋満利子

やいとばな。別名「へくそかづら」で「屁屎葛」と書く。屁と糞の両方の名を連ねた名前を誰が命名したのか分からぬが、灸花にとつては大迷惑。作者も灸花に同情しきりで「何といふ名をさづかりし」と嘆き悲しむ。

子に教へ賜はる齡晩夏光 高橋美智子

年齢を重ねていくうちに親子の立場が逆転。あれほど子どもに色々のことを教えてきたのに、今ではスマホの取扱い方から何から、我が子に教えるを乞うようになってしまった。時には子に諭されたりもし、親も形無しだ。この句の「晩夏光」は人生の黄昏に通ずる。寂しい。

さざ波のやうに死者の名慰霊の日 竹森 美喜

沖繩慰霊の日。新たな死者の名が読まれる、その声、その名前が「さざ波のやうに」と作者には感じられた。

沖繩戦は軍民一体の戦闘ではなく、徹底抗戦する日本軍が沖繩を盾にして惹き起こした戦い。米軍への投降は絶対に許されず膨大な数の命が蹂躪された。「民を見捨てた戦の果てに、蒼いお月様が泣いております」は桑田佳祐の『平和の琉歌』の一節。掲出句の「さざ波」は戦没者追悼と、平和を求める気持ちを表した安らぎの言葉である。

日進月歩凍眠松魚届きけり 田中 京

松魚は鰹で、夏の魚。その料理は生食が普通で土佐の鰹のたたきは美味。その鰹が冬眠ならぬ「凍眠」状態に加工され、遠くまで届くという。便利な世の中になったものである。それを作者は「日進月歩」と賞賛。解凍した松魚を作者はきつと上手く捌いたことだろう。へ出刃の背を叩く拳や鰹切る 松本たかし

燕の子吾も土用に生れしよ 寺田 幸子

燕の子に親しみを籠めた一句。作者もその燕の子も土用の暑いさ中に生まれた。謂わば、姉弟のような間柄。そのことだけで作者は嬉しい。これから成長し巣立って空を自由に飛び回る燕の子を羨望の目で見上げる作者の顔が想い起される。

一輪車あの子この子の涼しき背 長井 敦子

一輪車を器用に乗り返す、あの子にこの子。子どもは風の子で、あちこちを風のように走る。その背中は作者が詠むようにきつと「涼しき背」をしているのだろうか。一服の涼風が立ち上がった。

背泳の空は広びるちぎれ雲 中嶋きよし

犬掻きも出来ぬ私にとつて背泳は憧れ中の憧れ。この句の「空は広びる」を一度でも見てみたいと思う。ちぎれ雲まで見えたというその余裕の心に学びたい。

海舟像指差すそこは夏の海 中嶋 雅隆

隅田川べりの吾妻橋寄りに立つ勝海舟の銅像（勝安芳像）だろうか。その右手人差し指は、生まれ変わる日本に行く末を見守るかのように鋭く前に突き出されている。作者はその指先が夏の海を差していると詠む。海に向うには何があるのだろうか。「そこは夏の海」が印象的。

緑さす机に柚子全句集 中村 敬子

作者は「柚子全句集」を緑さす机の上で再読している。若葉爽やかな「緑さす」の季語に先生への敬愛の気持ちを籠めてこの句は詠まれたのだろう。先生の明るい笑顔が見えてくるようだ。

沢瀉の家紋の瓦田草取 中村 東子

沢瀉の紋は多年草である沢瀉を圖案化したもの。葉の形が矢尻に似ているため、そのめでたさから家紋として普及したようである。この句ではその家紋が屋根瓦に刻まれ、その周囲の田圃では一家総出で田草取りの真つ最中。何とも芽出度い風景である。

捨て切れず掛ける簾や妣の部屋 中村 幹子

母君の若い時分から長い間用いていた簾。その母が亡くなつた後に一度は捨てようかとも思った古びた簾である。この句、「捨て切れず」に母への切実な愛を感じる。

かき氷の旗うなだるる雨続き 野沢 慶子

氷旗である。びしょびしょに濡れて吊されている。「うなだるる」というから余程の雨が降っているのだろう。早く晴れて、乾いて、また明るい日差しの中で輝いてもらいたいもの。

マッチ擦るノスタルジーや蚊遣香 野村 雅美

マッチ擦るといふと、寺山修司の代表作（マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや）を思い出す。でも野村さんのこの句は祖国とは全く無関係で、マッチを擦り蚊遣香に火を点けることにノスタルジー

を感じたという内容。今の暮しの中でマッチを扱うことは滅多にない。

軒低きふるさと包む夕焼雲 橋本 恭子

「軒低きふるさと」でもう郷愁を感じてしまう。しかも「ふるさと包む夕焼雲」である。思わずお母さーんと呼んでしまうような故郷の真つ赤な夕焼け。

蛍袋明日への愁ひ仕舞ひ込む 長谷川菊男

偶然に見つけた蛍袋を眺めているうちに、この蛍袋に身を委ねたいという感覚に襲われたのかも知れない。そのひと時、明日への愁いが少し和らいだのだろう。「仕舞ひ込む」をそう理解した。

知恵絞り夫に持たせる黒日傘 長谷部幸子

猛暑が続くせい、近頃は男性も日傘を差すようになった。でもまだ日傘を差すのに抵抗がある御仁もいる。この句の「夫」もその一人なのだろう。夫の体を心配する妻は、何とか日傘を持っていくよう知恵を絞り（白でなく黒の日傘を）説得した。その愛情物語。

夢覚めて朝顔よりも早よ起きし 畠山 奈於

浅き夢を見たのだろうか、夜明けの前の一番暗い時間

に目覚めてしまった。それを「朝顔よりも早よ」と形容する。朝顔のあり様も想像でき、ユニーク。

百日紅病弱の義母元氣づけ 浜田 優子

凶鑑に「花弁は六枚。長い柄がある。雄しべは四十本前後で六本が長い。元来紅色だが、白、桃、紫紅色と彩りが増えた」と。一本の木でも美しいが街路樹のそれはまた見応えがあり綺麗だ。部屋からの眺めも同様。百日と言わず、いつまでも咲いていて欲しいですね。

チヌ釣ると竿さす氷川丸の海 原田ミチ子

チヌは関西の言葉で「黒鯛」をさす。脂ののる真夏は磯釣りが盛ん。この句は横浜吟行時の作。岸壁で釣っていた人に魚を尋ねたところ「チヌだよ」と。「氷川丸の海」の納め方が巧い。

グミのやうな柔らかな嘘端居して 春田 千歳

グミはゴムのような弾力のあるキャンデー。噛んでその感触を楽しむ。この句ではそのグミの柔らかさほどの嘘をつきながら端居していると詠む。人を騙すような嘘ではないようだ。何だか愉し気な句である。グミを発見し、その特性を句に活かせたのが収穫。

虹よりも虹指す指に見惚れけり 平野 豊雄
虹も素晴らしいが、その虹を示してくれた人差し指の美しいこと。「見惚れけり」の断定がそう思わせる。

山桃の滂沱の落下多佳子の忌 平野 美子
多佳子を母にもつ橋本美代子さんによると、多佳子の俳句は「女誓子」と評された時期、自らを静かにあたためようとした時期、自己を激しく表出した時期、旅に出て次に来たるべきもののために鍛えようとした時期と変遷してきたという。掲出句の「山桃の滂沱の落下」はその多佳子の「激しく表出」した時期と重なるのだろう。

職員室の隅に刺股夏休 本多 遊子
刺股は、防犯として不審者の動きを封じる護身用具。U字型の金具に長い柄がついている。それが夏休みのしんとした職員室の隅に立て掛けられているという怪。

●備忘録

広く自由な土俵でなく、狭い土俵だからこそ、色々の技が工夫されてきた。

一 二所ノ関親方(元横綱 稀勢の里)
(令和6年9月7日NHKBBS「大相撲どすこい研」より)

令和7年版 俳人協会編 「俳句カレンダー」 頒布

体裁 月別 表紙とも十三枚綴り壁掛用
内容 表紙 鷹羽狩行

内海良太・小川晴子・茨木和生・才野 洋
白濱一羊・暮目良雨・福神規子・安立公彦
鈴木しげを・三浦亜紀子・村上鞆彦・安原溪游
・安田のぶ子・加藤耕子・三田きえ子
中坪達哉・田中春生・能村研三
(掲載月順) 表紙を含み五四一句掲載
(ジュニアの俳句十二句掲載)

頒 価 一部 一、二〇〇円

送 料 「関」俳句会を通して購入される場合の送料は「関」が負担。

発送予定 十月以降

申込先 左記へお申し込みください。なるべく句会単位・グループ単位でお申込み頂ければ助かります。もちろん、お一人でのお申込みも出来ます。

〒187-0023 小平市上水新町一―二十一―二十二

小坪あゆみ

電話 090(5543)4538

申込方法

葉書又は電話で承ります。
希望部数、お届け先名および住所は必ず書いてください。

関発行所